

- 問1 室町時代の農業では、生産力の向上を背景に農民の生活や社会の仕組みが変化しました。この時代の農業や農民の様子を説明した文として、当時の状況を正しく述べているものはどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 備中鍬（びっちゅうぐわ）などの新しい農具の使用は禁止されており、依然として石包丁を用いた収穫が主流であった。 | 2. 幕府による大規模な新田開発が進められた結果、農民はすべて自分の土地を持つ自作農となり、身分が保障された。 | 3. 政府から「口分田」という土地を与えられた農民が、収穫した米の一定割合を税として納める制度が厳格に運用された。 | 4. 農業生産力の向上により、農民たちは「惣」と呼ばれる自治組織を作り、水利の管理などを共同で行うようになった。 |
|---|---|---|--|
- 問2 室町時代の歴史を記した資料において、応仁の乱が発生した背景として、将軍の跡継ぎ問題とともに「ある役職」を世襲する有力な家柄同士の対立が挙げられています。将軍を補佐し、守護大名の中から選ばれたこの幕府の最高職を何といいますか。（2019年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|-------|-------|
| 1. 守護代 | 2. 内管領 | 3. 関白 | 4. 管領 |
|--------|--------|-------|-------|
- 問3 「このごろ都に流行るもの」という書き出しで始まり、天皇の命令である「綸旨」を求めて人々が奔走する姿や、一夜にして成り上がる者がいる一方で没落する者がいるといった、建武の新政下での混乱した社会を風刺した史料を何と呼びますか。（2021年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-----------|------------|-----------|
| 1. 建武式目 | 2. 十七条の憲法 | 3. 承久の乱の宣旨 | 4. 二条河原落書 |
|---------|-----------|------------|-----------|
- 問4 室町時代、足利義政が築いた東山文化において確立された、畳を敷き詰め、襖や障子、床の間などを備えた建築様式を何といいますか。現代の和室の原型ともなった名称を答えなさい。（2021年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1. 書院造 | 2. 唐様 | 3. 校倉造 | 4. 寝殿造 |
|--------|-------|--------|--------|
- 問5 琉球王国の歴史や貿易の状況について説明した文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 江戸幕府の鎖国政策のもとで、長崎の出島のみを窓口としてオランダや中国と貿易を行った。 | 2. 宗氏が対馬を拠点として、朝鮮半島から輸入される朝鮮人参などを日本本土に広めた。 | 3. 尚氏が統治し、東南アジアや中国、日本を結ぶ海上交通の拠点として中継貿易で繁栄した。 | 4. 明治政府によって派遣された屯田兵が中心となり、北方領土の開拓と交易の拡大を進めた。 |
|---|--|--|--|
- 問6 室町時代、農民たちが結合・団結して自ら村の管理や用水の運営などを行うようになった自治組織を何と呼びますか。（2025年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|----------|--------|------|
| 1. 株仲間 | 2. 惣（惣村） | 3. 五人組 | 4. 座 |
|--------|----------|--------|------|
- 問7 琉球王国が行っていた、中国と日本の間を結ぶ貿易の仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。当時の交易における物資の流れを説明した内容から選びなさい。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 中国から仕入れた生糸や葉を、琉球で消費した後日本へ銀を輸出した。 | 2. 中国から銀や海産物を仕入れ、それを琉球経由で日本へ運んだ。 | 3. 日本から生糸や葉を仕入れ、それを琉球経由で中国へ運んだ。 | 4. 日本から銀や海産物を仕入れ、それを琉球経由で中国へ運んだ。 |
|-------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
- 問8 室町時代の日明貿易における輸出入品の特徴を説明した資料において、日本からの輸出品として記されている品目と、その背景の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 日本は鉱物資源として銅や硫黄、高い技術を要する刀剣を輸出し、対価として明の高度な手工業製品や通貨を得た。 | 2. 日本は銀を大量に輸出することで明から米や麦を輸入し、国内で頻発していた飢饉の対策とした。 | 3. 日本は綿織物を輸出し、明からは日本国内で生産が困難だった銅を輸入して、仏像の鑄造などに役立てた。 | 4. 日本は当時不足していた生糸を輸出品の主力とし、明からは軍勢力を強化するために鉄砲や火薬を輸入した。 |
|---|---|---|--|
- 問9 室町時代に活躍した運送業者である馬借は、しばしば「正長の土一揆」などの大規模な一揆において、その中心的な役割を果たしました。彼らが一揆の勢力を拡大させる大きな力となった背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|--|------------------------------------|
| 1. 各地の関所を管理し、武士から通行料を徴収する立場にあったため | 2. 幕府から直接、軍隊を指揮する権限を与えられていたため | 3. 自前で馬を生産し、それを幕府に売却することで莫大な富を独占していたため | 4. 馬を利用した高い機動力と、仲間同士の強い組織力を持っていたため |
|-----------------------------------|-------------------------------|--|------------------------------------|
- 問10 1467年に始まり、京都を主な戦場として約11年間にわたって続いた戦乱によって、京都の市街地は大きな被害を受けました。この戦乱の名称と、その後、京都の復興を担い祇園祭などの伝統的な祭礼を再興した、自治意識の強い商工業者の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 応仁の乱・惣 | 2. 応仁の乱・町衆 | 3. 壬申の乱・町衆 | 4. 壬申の乱・惣 |
|-----------|------------|------------|-----------|
- 問11 当時の琉球王国の様子や国際関係を説明した次の記述のうち、正しい内容を述べているものはどれですか。（2026年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 琉球は中国の明に対して朝貢を行っていたため、キリスト教国であるポルトガルやスペインの船が港へ入ることは厳格に禁止されていた。 | 2. 琉球は日本と中国のちょうど中間に位置していたが、貿易の相手は中国の明に限定されており、日本との直接的な交流や取引は存在しなかった。 | 3. 「万国津梁の鐘」の銘文には、琉球が周囲を強力な軍隊で固め、鎖国政策によって独自の文化を守り抜いている様子が詳しく書かれている。 | 4. 当時の港の様子を伝える記録には、多くの外国船が停泊し、中国の絹織物や日本の刀剣、東南アジアの香辛料などが溢れていたことが記されている。 |
|---|--|--|--|
- 問12 佐賀県の姉川城跡のように、南北朝時代に築城された城郭の歴史をたどると、当時の日本が深刻な内乱状態にあったことが分かります。このような社会情勢の中で、1392年に南朝が北朝に譲歩する形で合一を成功させ、室町幕府の全盛期を築いた人物が行った政策として正しいものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 鎌倉に幕府を開き、守護・地頭を設置した。 | 2. 分国法を定め、戦国大名としての地位を確立した。 | 3. キリスト教の布教を禁止し、鎖国体制を完成させた。 | 4. 南北朝の合一を実現し、明との間で勘合貿易を始めた。 |
|-------------------------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
- 問13 鎌倉幕府が滅亡した後、後醍醐天皇が始めた新しい政治について、その混乱ぶりを「此頃（このごろ）都に流行（はや）るもの、夜討（ようち）、強盗、偽（にせ）の綸旨（りんじ）」などと七五調の形式で厳しく風刺し、京都の河原に立てられた史料を何といいますか。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|------------|--------|
| 1. 平家物語 | 2. 御伽草子 | 3. 二条河原の落書 | 4. 徒然草 |
|---------|---------|------------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 農業生産力の向上により、農民たちは「惣」と呼ばれる自治組織を作り、水利の管理などを共同で行うようになった。	二毛作の普及や肥料・農具の改良によって農業生産力が高まると、農民たちは経済的な力を蓄え、村ごとに「惣（惣村）」という自治組織を形成するようになりました。彼らは共同体のルールを定め、農業に不可欠な用水（水利）の管理や、山林などの入会地の管理を自ら行うようになりました。団結を示すために円陣状に署名する「傘連判状」などの手法が取られたのも、こうした自律的な村の動きの一環です。
問2	答え 4 管領	応仁の乱は、将軍足利義政の跡継ぎ争いに加え、幕府の最高職である管領を世襲する畠山氏や斯波氏の家督争いが複雑に絡み合って発生しました。有力な守護大名が幕府の要職を占めていたため、家内の争いがそのまま幕府全体の政治抗争へと発展し、11年に及ぶ戦乱を招く原因となりました。
問3	答え 4 二条河原落書	二条河原落書は、1334年に京都の二条河原に立てられた揭示物（落書）の翻刻文として伝わっている史料です。後醍醐天皇の政治（建武の新政）が理想とは裏腹に、現実には混乱を極めていたことを伝えています。「綸旨（りんじ）」とは天皇の意思を伝える文書のこと、これが乱発されたことが混乱の一因となりました。
問4	答え 1 書院造	室町時代の東山文化では、禅宗の影響を受けた簡素で機能的な武家の好みが反映されました。慈照寺東求堂同仁齋（じしょうじとうぐどうどうじんさい）に代表されるこの様式は、書斎としての機能を持つ「書院」や「違棚（ちがいだな）」を備え、現代の和風住宅の基礎となりました。平安時代の貴族の住居様式である寝殿造とは、床に畳を敷き詰める点などで大きく異なります。
問5	答え 3 尚氏が統治し、東南アジアや中国、日本を結ぶ海上交通の拠点として中継貿易で繁栄した。	琉球王国は、中国大陸への朝貢を欠かさず良好な関係を保つ一方で、日本の室町幕府や東南アジアの諸国とも活発に交流しました。この広範なネットワークが、小さな島国であった琉球に大きな富をもたらしました。他の選択肢は、対馬の宗氏による朝鮮貿易や、北海道の開拓、江戸幕府の長崎貿易に関する記述であり、琉球王国の説明とは異なります。
問6	答え 2 惣（惣村）	室町時代になると、農民たちが強く結びついて村の自治を行う「惣（惣村）」が作られました。「座」は中世の商工業者の同業者組合、「株仲間」は江戸時代の商人らの同業者組合、「五人組」は江戸時代に農民らを統制するために作られた制度です。
問7	答え 4 日本から銀や海産物を仕入れ、それを琉球経由で中国へ運んだ。	琉球王国の中継貿易では、中国から日本へは「生糸・薬・茶」といった高級品や嗜好品が流れ、日本から中国へは「銀・海産物」などの資源や食料が流れる構造になっていました。琉球はこの両者の間に入り、物資を運搬することで繁栄しました。
問8	答え 1 日本は鉱物資源として銅や硫黄、高い技術を要する刀剣を輸出し、対価として明の高度な手工業製品や通貨を得た。	日明貿易における日本の主な輸出品は、火山国である利点を生かした硫黄や、国内で産出される銅、そして武器でありながら美術品としても評価の高かった刀剣などです。これらと引き換えに、明からは銅銭（永楽通宝など）や生糸、書画、陶磁器といった高度な文化産物や物資を輸入していました。生糸や銀はこの時代の輸出の主力ではなく、後の時代（戦国時代以降）に状況が変化します。
問9	答え 4 馬を利用した高い機動力と、仲間同士の強い組織力を持っていたため	馬借は日頃から馬を用いて各地を移動していたため、情報伝達が早く、優れた機動力を持っていました。また、交通の拠点に集団で居住していたことから団結力が非常に強く、徳政（借金 of 帳消し）を求める土一揆が発生した際には、その組織的な行動力が一揆を勢いづける大きな原動力となりました。
問10	答え 2 応仁の乱・町衆	1467年に発生した応仁の乱は、将軍の継嗣問題や守護大名の対立などが原因で始まり、京都の大部分を焼失させました。この戦乱ののち、京都の有力な商工業者たちは「町衆」と呼ばれる集団を形成し、自治組織を作って町の警備や道路の整備、さらに祇園祭などの文化活動を支え、復興に尽力しました。「惣（惣村）」は主に農村部で作られた自治組織を指すため、都市部の町衆とは区別が必要です。
問11	答え 4 当時の港の様子を伝える記録には、多くの外国船が停泊し、中国の絹織物や日本の刀剣、東南アジアの香辛料などが溢れていたことが記されている。	琉球王国の港は、中継貿易の拠点として非常に賑わっていました。明（中国）からは絹織物や陶磁器、日本からは刀剣や銀、銅、東南アジアからは香辛料や染料、象牙などが持ち込まれました。十六世紀後半の港を描いた資料などからも、多数の船が停泊し、多種多様な物産が取引されている国際色豊かな状況が確認できます。このように、琉球は特定の国に限定せず、広くアジア全体の交易ネットワークの中心として機能していました。
問12	答え 4 南北朝の合一を実現し、明との間で勘合貿易を始めた。	足利義満は1392年に南北朝の合一を実現して国内を安定させた後、対外的には明（中国）との間で「日本国王」として勘合貿易を開始しました。各地に姉川城のような城郭が築かれた動乱の時代から、幕府が外交権と経済権を握る安定期へと移行させた点が大きな特徴です。選択肢にある守護・地頭の設置は源頼朝、鎖国の完成は徳川家光の功績です。
問13	答え 3 二条河原の落書	後醍醐天皇による建武の新政が、武士の慣習を無視したものであったために社会が混乱し、人々の不満が高まったことを背景に書かれました。当時の京都の世相を鮮やかに伝える歴史的資料として知られています。